

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床運動学		講義・実習	藤 信太郎	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>理学療法の主な目的は、患者の基本的動作能力の回復である。臨床の場面では運動器系、神経・筋系、臓器系に由来する運動障害を対象に運動療法を手段として治療することが多い。従って理学療法士は人体の基本的な運動学に周知する事はもちろん、臨床の場面で見える患者の異常な運動を運動学的な観点から見る必要がある。臨床運動学では様々な運動が遂行可能となるメカニズムや、主な疾患・障害の姿勢動作分析が理解できるようになることを目的とする。</p>				
授業の到達目標				
<p>1. 運動力学・生体力学の基礎知識と運動への繋がりが理解できる 2. 正常な姿勢動作の生体力学的メカニズムとその解釈が説明できる 3. 疾患特有の疾患・動作と病態・障害像との関係を理解できる 4. 運動技能を獲得するうえでの運動学習の理論的枠組みが理解できる 5. 異常な運動・反応を触診にて評価することができる</p>				
授業計画				
回	内容			
1	臨床運動学 概論、骨・関節領域の臨床的捉え方①			
2	骨・関節領域の臨床的捉え方②			
3	筋・筋膜領域の臨床的捉え方①			
4	筋・筋膜領域の臨床的捉え方②			
5	筋・筋膜領域の臨床的捉え方③			
6	随意運動・不随意運動①			
7	随意運動・不随意運動②・運動学習			
8	姿勢（構成要素・制御メカニズム）			
9	姿勢の診かた			
10	姿勢（異常）			
11	基本動作の捉え方			
12	歩行（構成要素・制御メカニズム）			
13	歩行（神経機構）			
14	歩行の診かた			
15	歩行（異常・老年性）			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版	市橋則明 編集		文光堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学	石川朗・種村留美 総編集		中山書店	
観察による歩行分析	kirsten Götz-Neumann		医学書院	
動作分析 臨床活用講座 バイメカニクスに基づく臨床推論の実践	石井慎一郎 編著		MEDICAL VIEW	
自由記載				
備考				